

2月は

転倒災害防止の

重点取組期間です



STOP! 転倒災害

プロジェクト

～トップが打ち出す方針
みんなで共有 生み出す安全・安心～

東京労働局・労働基準監督署

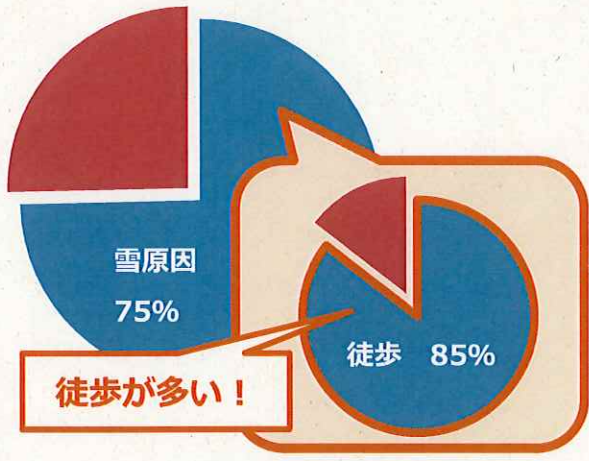
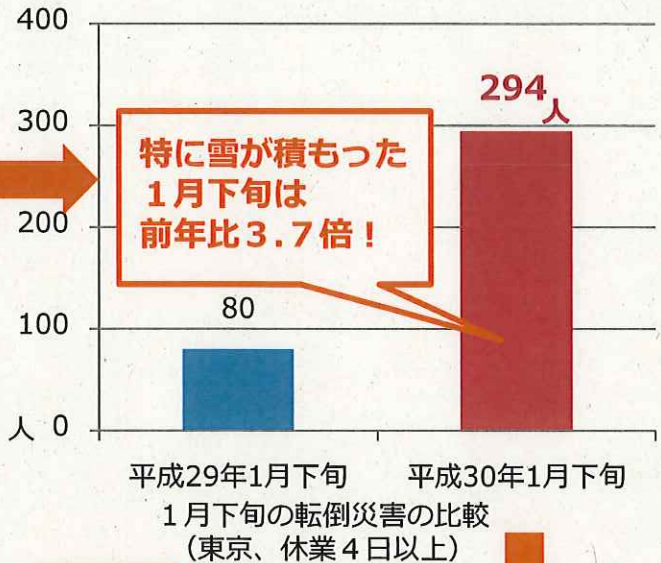
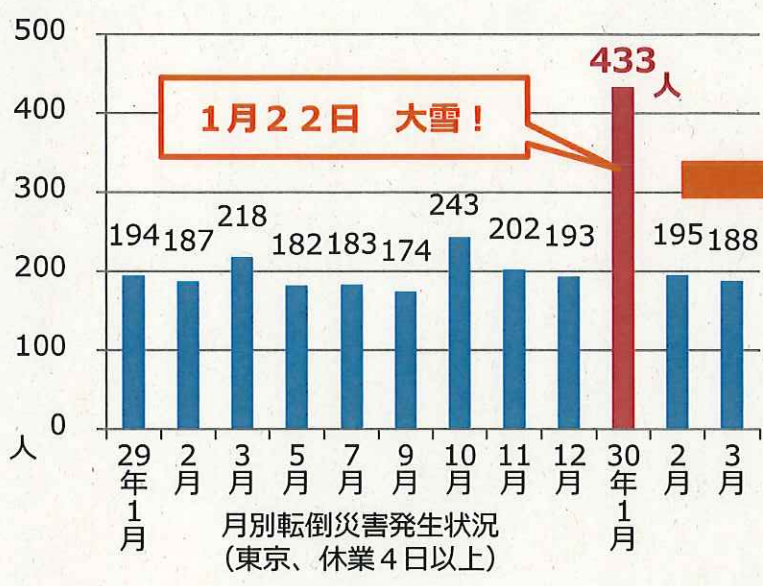
都内における冬季特有の災害防止

冬季は、積雪・凍結を原因とする、転倒災害、自転車及び車両（オートバイク含む）運転中の交通労働災害、建物屋根等の除雪作業中の墜落・転落災害等の労働災害が懸念されます。

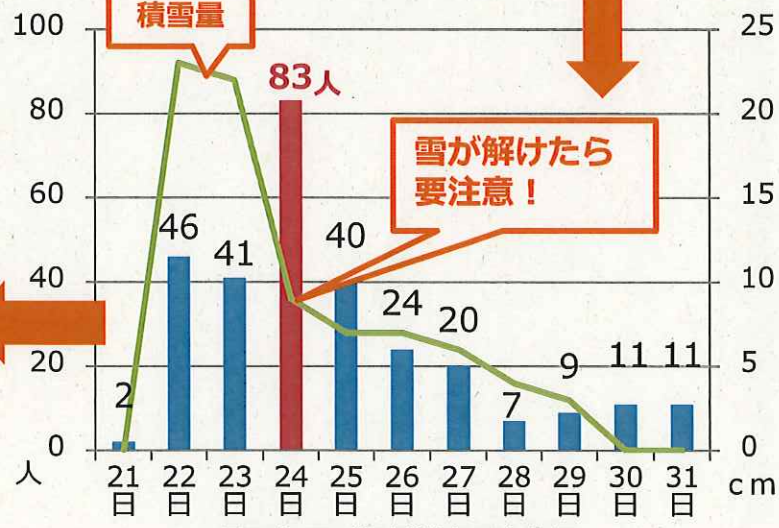
当局管内でも、平成30年1月22日に平成26年豪雪以来4年ぶりの積雪23cmを記録し、積雪・凍結を原因と思われる転倒災害が大幅に増えましたが、こうした降雪によって、屋外のみならず、屋内でも水や氷によって滑るなどの転倒災害も多発しています。

都内では、労働者が積雪や凍結に不慣れであることに留意し、天候急変に対処できるよう情報収集や早めの準備等、転倒災害等防止に万全の取り組みをお願いします。

都内における転倒災害の発生状況 (平成30年データは11月末時点での速報値)



1月下旬転倒災害状況分析 (平成30年、東京、休業4日以上)



1月下旬日別転倒災害発生状況 (平成30年、東京、休業4日以上)

冬季の転倒災害の発生状況は、天候による影響を大きく受け、積雪・凍結により多発します。平成30年1月22日の大雪の際も、雪の影響が考えられる1月下旬（1月21日から31日まで）の転倒災害は、積雪のなかった前年同期と比べ、214人増、3.7倍と大幅に増えました。この期間の転倒災害のうち7割が屋外の積雪を原因とする滑りやつまずきであり、そのうち8割が徒歩での移動・作業中です。また、最も転倒災害が多かった時期は、降雪から2日後の雪が解け始めた日になっています。

雪が解け始めたら、路面凍結の可能性が高く、屋外の移動・作業は、特に注意が必要です。

❄️ 冬季における転倒防止対策 ❄️

冬季は、積雪や路面の凍結などにより転倒災害が多く発生する傾向があります。

次の4つに留意して転倒災害を防ぎましょう。

● 天気予報に気を配る

寒波が予想される場合などには、労働者に周知し早めに対策をとりましょう。

● 時間に余裕をもって歩行、作業を行う

悪天候による交通機関の遅れが見込まれる場合は、時間に余裕をもって出勤するようにし、落ち着いて作業をするように心がけましょう。屋外では、小さな歩幅で靴の裏全体を地面に付けて歩くようにしましょう。

● 駐車場の除雪・融雪は万全に、出入口などにも注意する

駐車場内や駐車場から職場までの通路に、除雪や融雪剤の散布を行いましょう。また、出入口には転倒防止用マットを敷き、照明設備を設けて夜間の照度を確保しましょう。

● 職場の危険マップ、適切な履物、歩行方法などの教育を行う

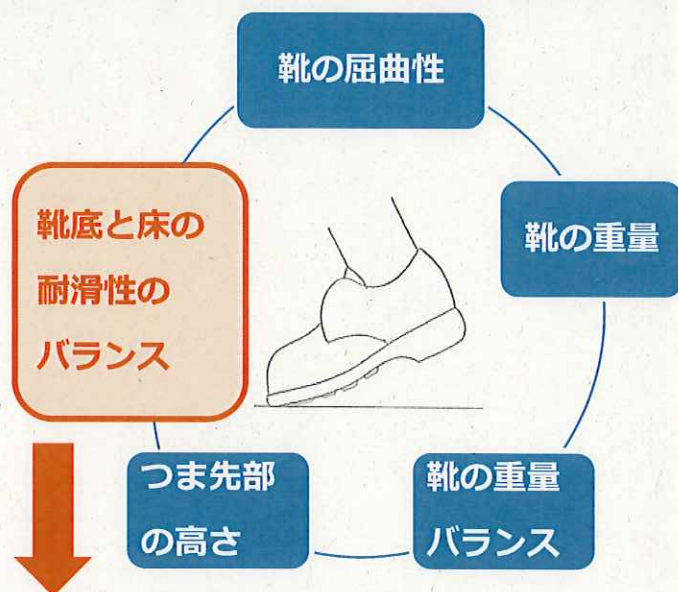
職場内で労働者が転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、危険マップなどにより労働者に伝えるようにしましょう。また、作業に適した履物選びや、雪道や凍った路面上での歩き方を教育しましょう。

❄️ 知っていますか？ 冬靴 ❄️

● 転倒防止に有効な安全靴

転倒の主な原因のうち、「滑り」と「踏み外し」は、靴底の滑りにくさを上げることで転倒リスクを下げる事ができます。

また、高齢者だけでなく、若年者でも疲労が蓄積すると歩行時に足が上がらず、摺り足に近い歩行形態になって靴の先端部を凹凸に引っ掛け、10センチ程度の段差でも、つまずきやすくなります。「つまずき」は、靴底の構造によって、ある程度の効果を出すことができます。転倒に有効な安全靴に求められる性能を整理すると、右の5点になります。



● 安全靴の耐滑性にはご注意を！

水・油用の耐滑靴、氷上用の耐滑靴、粉体上の耐滑靴は、それぞれ対策が異なります。

市販されている耐滑靴の多くは「水・油用」ですので、雪や氷の上では滑ることがあります。

したがって、耐滑靴といえども、冬季の屋外使用では注意が必要となります。

冬靴とは、「滑らない」「濡れない」「暖かい」などの特性を備えている靴です。特に凍結路面には、ピン・金具付きや深い溝のある靴底を備えた冬靴が適しています。また、自分の靴にそのまま装着できる、着脱可能な「靴用アタッチメント」もあります。靴用アタッチメントは、ゴムバンドやマジックテープなどで靴底に固定するだけなので簡単に装着できます。

作業に適した靴を早めに準備ください。

まずは自主点検をいましょう

チェックリストによる自主点検を行い、安全委員会などの話し合いの場で、どのように改善するかアイデアを出し合しましょう！

チェック項目

1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに、注意を促す標識をつけていませんか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>
10	天気予報に気を配っていますか	<input type="checkbox"/>
11	時間に余裕をもって歩行、作業を行っていますか	<input type="checkbox"/>
12	駐車場の除雪・融雪は万全に、出入口などにも注意していますか	<input type="checkbox"/>
13	職場の危険マップ、適切な履物、歩行方法などの教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>

2月は、転倒災害防止の
重点取組期間です！

STOP! 転倒災害
プロジェクト

東京労働局では、

「Safe Work TOKYO 2018」を展開しています。

労働災害の防止に関する様々な情報を掲載しています。



https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/news_topics/topics/2017/9_00002.html